

進路探究 WEEK (2) 「熱中 集中 継続 そして〇〇〇」 研究推進部長 丹生 憲一

10月4日の午後、医誠会病院名誉病院長・丸川征四郎先生（第14回生）による「高校時代をふりかえって伝えたいこと」と題した、基調講演が行われました。（余談ですが、参議院議員の丸川珠代さんのお父さんでもあります）

[1] 考え方の基礎を作る時期

丸川先生は、幼少期を市島町鴨庄地区で過ごし、鴨ノ庄小学校、山東中学校（現在の市島中）を経て柏原高校に入学されました。「中学校まではまったく勉強をせず、ラジオを分解しては組み立てることに夢になっていた」ということでした。その、「熱中した体験が一生の宝物」だと…。高校に入ったときの成績は下から3番目…たまたま隣に座られた藤原さん（故人）から勉強の仕方を教わったそうです。その教えというのは「計画を立て、課題を決め、集中して、根気よく、継続する」ということです。「持つべきはよき友。同時に、よき友でありたいと思った」ということばが胸に残っています。天文班では、毎日、太陽の黒点の観察をされ、在籍時代の前後と合わせて記録された10年間のデータは、国立天文台やNASAの記録の一部と重なっています。部活動からは「仲間で協力する力の大きさ」「複数人が同じ質で行うことの大切さ」「観察研究を継続することの重要性」を学んだということでした。浪人時代には、「異なる考え方に感動」し、「学ぶということの本質に触れる」出会いがあったそうです。そして、このときに先生の「脳が覚醒した」のだとおっしゃいました。

1976年にこれまでの理論を根底から覆すような論文を発表され、医学博士の称号を授与するに値するまで言われたそうですが、それを成し遂げたのは「不可解な測定結果を注視した」「約二年間、昼も夜も熱中した」「根本に立ち返って分析した」「異なった考え方で分析した」「支援してくれる先輩、友人がいた」ということだとまとめられています。…ただ、惜しむらくは英語で論文を書かなかったこと。これからは、何事にも英語は必要になるからしっかり勉強しておきなさい！とアドバイスもいただきました。

[2] 進路の選択＝人生設計の選択

医学部を選んだ理由は…。電子工学部に進学するつもりが、腕試しにと受験した医学部にも合格されたそうです。お兄さんの後押しと、相談したお医者さんの「これからの医学は電子工学も使うから、6年間勉強させてもらえるなら医学部に行きなさい」という一声で決心されたということでした。「どのような環境にあっても、職業についても、人は一生学ばなければいけません。君は、大学医学部に行くのではなく、学びに行くのです。」



という言葉に胸を打たれたとも…。特に3年生の皆さんに、かみしめてもらいたい言葉でした。「学ぶ場所が、たまたま大学なのだ」

[3] 勉強のスタイル

忘却曲線を示され、記憶の特性を説明しつつ、記憶を定着させるために「集中」「関連付け」「深い理解」「復習」「継続」の必要を力説されました。同時に、「忘れることは決して悪いことではない。彼女にふられたことを忘れられなければ、一生悔やみ続けるだろう。忘れられるからこそ、また次の恋に向かっていけるのだ。」とも…。ここで、「集中」ということについても、「静かな場所に閉じこもって集中できたといっても、脆弱な集中である。強固な集中は、周りに人がいてうるさい環境で集中できてこそ生まれる。」と、茶の間での勉強を勧められました。このほかにも「他人に聞くことを恥としない」「最初に、正確に単純な概念で覚える」など、勉強に必要なと思われるスタイルを示していただきました。

最後にまとめとして、これまでの人生を振り返って、「電子工学を志したが、医師になった」「外科医を目指したが、麻酔科医、救急科医に」…と、自分の思い通りではないことを話されたあと、「人生は悔しく、辛く、残念なことの連続。ときどき来る、嬉しいことを楽しみに、今を耐えて努力する」「つまり、今できることを精一杯する」のが人生だとおっしゃいました。私が最も感動したのは、次のことばです。

「親、先祖から受け継いだ自分の能力を、一生かけて磨き、もっと良いものに育て、隣人に、社会に役立てること、役立つこと。それこそが、私たちがこの世に生まれた意義である。」「そうしないなら、親、先祖に対して申し訳ない。そうしないなら、子供、孫、ひ孫に恥ずかしい。そうしないなら、自分自身に嫌悪を感じる」

…タイトルの〇〇〇は「楽しく」でした。

10月5日(金) 第1学年総合 第10回

1学年総合担当 西本 秩抄

「身近な丹波・篠山の人物伝」の2時間目、前回班代表に選んだポスターを用いて、ポスター作成者以外の班メンバーが発表します。しかも2班ずつ各クラスに移動し、他のクラスの人に発表を聞いてもらうという、初めてづくしの時間です。いつも以上の緊張感の中、発表が始まりました。発表時間は4分間です。発表内容が足りなくて時間を持て余しそうになり、何とかアドリブを交えながら時間をもたせる班・沈黙が続く班・時間いっぱいまで発表できるほど、充実した発表内容の班……。聞く方も、普段見慣れない顔ぶれの発表に、真剣なまなざしで耳を傾けていました。ポスターの字が小さくて少し見にくかったり、緊張から早口になって聞き取りにくかったりと、課題も見えました。「伝える」ことの難しさを改めて感じたことと思います。いかに自分たちの発表する人物に興味を持ってもらえるかということまでを考えて発表できたか、振り返ってほしいと思います。

次回は、進路探究 WEEK で聞いてきたことを相手に伝えます。自分が興味を持って聞いた話を、正確に、そして興味を持って聞いてもらえるよう、「伝える」発表を。



10月9日(火) 第2学年探究 第13回

引き続き、各担当の先生方とそれぞれの研究・調査手法を模索し、アンケート作成や実験に取り組んでいます。班によっては、校内で生徒・保護者対象に既にアンケートを実施し、統計作成に向けて入力作業を行っていました。



10月10日(水) 第1学年探究 第10回

前回到続いて、発表の第2回。1回目よりも慣れた感じで、笑顔で質疑応答が見られました。

